

自己点検・評価報告書

日本語教育機関名：与野学院日本語学校

点検・評価実施日：2023/4/10

実施責任者：校長 谷 一郎

実施担当者名(役職)：教務主任 大知里 弘美、事務長代行 花田 涼

<総論>

コロナによる混乱は今年度も継続していた。特に、入国制限緩和による学生の入国が断続的に継続した年度始めから8月はコロコロと変わる入国ルールに翻弄されたうえに、クラスも構成者が毎日のように変わり、安定した授業が行えているとは言い難い状態であった。年度後半には、コロナによる混乱は沈静化してきたが、校内の体制は現状維持とコロナによる混乱からの回復が精いっぱいであった。一方、情報システムの刷新を行い業務の効率化を進めている。

<教育の理念・目標>

理念は、教員会議、校内での掲示を通じて、十分に周知されている。

<学校運営>

規程に基づいた運営は引き続き機能している。一方、コロナ禍での混乱により、年度予算の編成と執行ルールの明確化どころではなく、大きな前進はなかったが、従来からの課題であった中期計画について、1年から中期の運営計画を立案し、来年度からそれに沿って運営していくことにした。

<教育活動の計画、実施>

教育活動の計画、実施面においては、規程通り安定して実施されている。

<成績判定と授業評価>

成績判定、進級や卒業認定は、適切に行われているが、順次時代の流れ(日本語教育の参照枠等)に沿った改定作業を進めている。

<教育活動を担う教職員>

教員・職員の評価制度は、教員・職員評価シートの活用を行っているが、まだまだ改善の余地がある。一方、コロナ禍であっても、教職員の研修は継続されており、質向上への努力が続けられている。

<教育成果>

教育成果の判定は、適切に行われており、進路の把握も漏れなく行われている。しかし、卒業生の状況把握の仕組み作りは、導入したスマートフォン向けアプリの利用中止により振出しに戻

ってしまい、新たな仕組みは出来ていない。

<生徒支援>

適応、生活、進路、在留等の支援は、概ね十分にできている。来日時期がバラバラとなるコロナ禍特有の状況に対応するため、オリエンテーション動画開発に取り組み実施した。

<進路に関する支援>

進路指導は、体系的に行われている。

<入国・在留に関する指導及び支援>

入国・在留に関する指導は、丁寧に定期的に行われている。昨年度に引き続き、社会問題となっている資格外活動の時間オーバーについて、オリエンテーションで再三、アルバイト関連の指導を行った。Google spread sheet による管理、学生の通帳チェックも行い、資格外活動の違反防止に取り組んでいる。

<教育環境>

教育環境については、概ね問題はない。

<入学者の募集と選考>

学生募集、選考は、概ね問題なく行われているが、コロナ禍による応募者減は継続しており、質の維持とともに、量の確保が課題となっている。

<財務>

財務状況については、とりたてて問題はない。

<法令遵守>

コンプライアンスに関しては、昨年度同様に推進体制に基づき行われている。

<地域貢献・社会貢献>

コロナ禍による地域交流の中断は年度後半に試行的な再開が始まったが、まだまだであり、来年度に通常状態への復帰が望まれる。